

最近の人口は

自然、社会動態とも微増。 ふくらむ高齢者人口

十月に行われた国勢調査へのご協力、ありがとうございました。さて、今回の調査で秋田市の人口は何人になるか。人口当てクイズにもたくさんのご応募をいただきました。集計結果の速報は十二月に総務庁から発表される予定ですので、当選者発表はもうしばらくお待ちください。今回は近年の秋田市の人口の動きをみてみました。

秋田市の人口は、昭和四十年代から五十年代前半にかけては年間四千人以上の増加がありましたが、最近では年間一千人前後の増加で推移しています。グラフ1を見ると分かるように、上昇カーブはとても緩やかなものになっています。

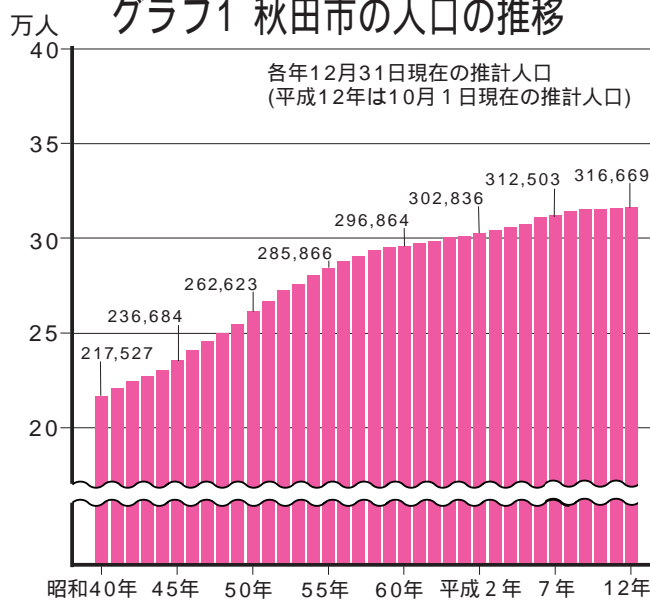
まもなく自然減か

人口は、出生数から死亡者数を引いた「自然動態」と、転入者数から転出者数を引いた「社会動態」によって増減します。グラフ2のとおり、秋田市の自然動態は、出生数が減少し、高齢化が進み死亡者数が増えてきたため、その増加の幅が年々

小さくなってきています。昭和五十年代には年に二千人以上あった自然動態の増加が、平成十一年にはわずか三百七十八人になりました。このままで推移すると、数年以内には死亡者数が出生数を上回る「自然減」の状態になると予想されます。

出生数は、若い女性の人口が多いか少ないかでも左右されます。ですから、このあと数年は第二次ベビーブーム世代の女性が二十代、三十代を構成するた（左の人口ピラミッド参照）、出生数は当分のあいだ急激には落ち込みません。しかし、その後は若い女性の人口が少なくなり、出生数もかなり減少していくものと予想されます。

グラフ1 秋田市の人口の推移

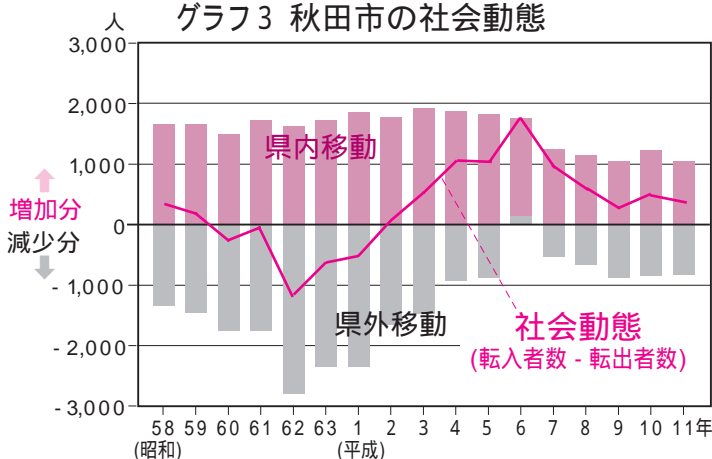


中央公民館の転動奥様教室に参加しているみなさん。4～5ページを見て



こんにちは赤ちゃん

グラフ3 秋田市の社会動態



グラフ2 秋田市の自然動態

